

# 外国語科学習指導案

日時 令和5年10月13日(金)第5校時  
場所 安田ホール  
対象 1年B組40人  
授業者 教諭 入江 将紀

## 1 単元名

NEW HORIZON English Course I Unit 6 A Speech about My Brother

## 2 単元について

### (1) 教材観

本単元では、生徒の身近にいる人物やキャラクターなどを題材として取り上げ、教科書の内容を通して、身近にいる人物やキャラクターの魅力や特徴などに関する理解を深めることを学習の目的としている。言語材料としては、三人称単数現在形(以降、「三単現」とする)を用いた文構造や、一般動詞の語尾に s または es を付ける屈折変化が扱われており、それらを学習することで、生徒は、身近な人物やキャラクターの特徴や魅力などについて述べたり、その人物やキャラクターについて相手と、より幅広く正確にやり取りを行ったりすることができるようになると思われる。また、人物だけでなく身近な物を主語とする表現も教科書本文中で扱われており、身近な人物やキャラクターの持ち物や興味を示す物について、より詳しい説明することができるようになると思われる。身近な人物やキャラクターという、生徒が興味・関心をもちやすい題材を通して、興味のある身近な人物やキャラクターの情報をまとめたり、発表を行ったりする言語活動に取り組むことで、新出表現の使用場面等の理解を深めながら、自分の意見や考えを主体的に表現する態度を育むことに適した単元であると思われる。

### (2) 生徒観

本学級の生徒は、入学当初から、積極的な姿勢で授業に臨み、ペア活動等においても、誰とでも意欲的にやり取りを行うことができる雰囲気がある。また、質問や英文添削を求める生徒や、学校内外で開催される英語に関する行事等に参加する生徒が一定数いるなど、授業時間以外でも、自己伸長を図ろうとする意欲も見える。その一方で、アンケート①②(実施時期:令和5年4月 実施対象:1年B組40人)を見ると、入学段階で半数以上の生徒が英語学習等に不安を感じており、小学校時において学習塾などで英語の学習に取り組む生徒が半数以上いた。

授業以外の英語学習で力を入れていたもの	%
塾・学習教室で学習していた	56.4
特に学習していなかった	17.9
英会話学校に通っていた	12.8
インターネットやアプリで学習していた	5.1
その他	5.1
通信教育の教材で学習していた	2.6

英語に関する印象	%
授業はわかっているが、少し不安	33.3
授業はわかっているが、少し不安	35.9
少しわからないところがあり、不安	28.2
不明点は少しあるが、不安はない	2.6
授業についていけず、非常に不安	0.0

【アンケート①:小学校の授業以外での英語学習で力を入れていたものを教えてください】  
【アンケート②:英語学習に関してどのような印象がありますか】

また、以下のアンケート③(実施時期:令和5年7月 実施対象:1年B組40人)を通して、授業での

取組や自己課題に向き合う際の生徒の意識について分析すると、生徒の半数以上が自身の成長を十分に感じられない理由として、指示があるものや課されたものに取り組むことに終始し、取り組むべき課題を自分で把握したり、それに応じて学習内容を自己決定したりすることができていないことが挙げられる。

学習到達度の自己評価	%	評価の理由や普段の取組（同内容は授業者によってまとめている）
英語力を十分に伸ばすことができています。	13.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5-STAGEを自分の中で整理、復習しながらしているので英語力は伸びていると思う。</li> <li>・中学生の基礎英語というラジオを毎日聞いている。</li> <li>・初め、英語が全然わからず、塾や家で何度もプリント100点になるまでといた。</li> <li>・授業の内容を踏まえ、家庭でやるべきことを持ち帰っている。</li> </ul>
まあまあ英語力を伸ばすことができています。	23.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習をしっかりと行っている。</li> <li>・飛龍の英語の欄で今まで知らなかったような単語と意味を効率よくおぼえられていると思うから。</li> <li>・ある程度の力はあると思うが、場面に応じて英語で表現するまでに時間がかかる。理由は、疑問文を使う際に、肯定文から動詞を動かすという動作を頭の中で行っているからだと思う。だから、飛龍や自主学習を作業的にするのではなく、ひとつひとつの行動を意識して行いたい。</li> </ul>
どちらとも言えない。	26.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト前に範囲内の復習が計画的にできなかった。</li> <li>・今はまだ塾などの影響でついていける気がするけれど、伸びているか、といわれると微妙である。</li> <li>・家庭学習があまりできていない。したとしても、その日に学校でした復習ができていない。</li> <li>・工夫しようとしても時間がなかったり単語だけになることが多かったりしてあまり効果的な学習ができなかった。</li> <li>・教科書の内容に目を通すことで終わってしまい、自分で考えながら学習できていない。</li> <li>・いざ質問をしようとしても、質問が浮かばない。</li> </ul>
あまり英語力を伸ばすことができていないとは言えない。	31.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家で問題ばかり解いて、その活用ができていなかった。</li> <li>・できるところを何回もやっている。英語の家庭学習の取り組みを決められた量しかやっていない。</li> <li>・教科書に載っているものしか書いていなかったりして、応用問題が解けていなかった。</li> <li>・授業で習ったことの復習あまりができていない。</li> <li>・習い事のあとに自宅学習をしたいけど、宿題もやっていると時間が遅くなってしまい、宿題だけでいつも終わってしまう。</li> <li>・単語ばかり書いている。発音の練習をしていない。いつも文を暗記するだけで終わってしまい、他の文の使い方を读んだりしていないから繰り返しをしっかりとできず、自分の表現にも繋がらない。</li> </ul>
全く英語力を伸ばすことができていない。	5.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語塾に通っていて、塾で力を伸ばしているという実感がある。</li> <li>・学校の授業についていこうと思って教科書やノートにメモを取っているけど、力が伸びているのかは、わからない。</li> </ul>

【アンケート③:自身の学習の成果と、そう感じる理由を教えてください】

また、アンケート④(実施時期:令和5年7月 実施対象:1年 B組40人)において、生徒が全体での言語活動等以外に、個々で課題を解決するためにどんな方法で行いたいかを調査したところ、同じ学習課題与えていても、生徒によって選ぶ方法が千差万別であることが分かる。

	%
教科書やノートを見て復習	67.5%
分からなかった単語などを調べる。	50.0%
授業スライドで復習	45.0%
5STAGE	37.5%
Navima	37.5%
音読	32.5%
質問	32.5%
デジタル教科書などを用いたリスニング練習	17.5%
分からなかった文の意味を調べる	17.5%
Large taskに向けた準備や練習	15.0%
ネット上の英語の読み物などを読む	10.0%
ペアとの英語でコミュニケーション	7.5%
eboard	5.0%

【アンケート④:個人で学習する時間があれば、主に何を行いたいですか ※3つまで回答可】

生徒の実態を踏まえ、生徒が各々の不安や課題を表出しやすい環境の中で、個々の進捗状況を把握し、自己決定に基づきながら課題解決に臨むことが出来るような授業をデザインしていく必要があると考える。

### (3) 指導観

上述の教材観や生徒観を踏まえて、生徒が主体的な自己課題の解決を通して、コミュニケーションを図る資質・能力をよりよく身に付けることができるようにするために、Large Task を軸とした自由進度学習の実現を目指すことが必要と考えた。生徒が単元の見通しと自己課題に沿って試行錯誤することができるような学習環境と教師の関わり工夫を取り入れることで、自律的に資質・能力を身に付けようとする生徒を育むことができると考えた。

生徒指導提要との関わりから、「自己存在感の感受を促進する授業づくり」の観点において、生徒が自身の役割と責任を自覚しながら班活動などに参加する協働的な授業環境を整備することで、生徒の自己肯定感の向上を図りたい。また、ICT 等を活用し、「指導の個別化」「学習の個性化」により個別最適な学びを実現できるようにしたい。次に、「共感的な人間関係を育成する授業」という観点から、教師がファシリテーターとして授業に携わり、生徒の発言や努力を促す声掛けを行いたい。また、班活動においては、各班にリーダーを設定し、リーダーを育成する中で、互いに認め合い・励まし合い・支え合える班活動を促進していきたい。さらに、「自己決定の場を提供する授業づくり」という観点においては、単元計画の確認や自己表現、授業の振り返り、また、それらを踏まえた自学自習のための時間を授業内に定期的に設定したい。最後に、「安全・安心な『居場所づくり』に配慮した授業」という観点においては、学級担任や他の教科担任とも連携を取り、生徒理解に努め、生徒の個性が尊重され、安全かつ安心して学習できるように配慮したい。

具体的には、「イザベラ先生に、自分が考案した学校のマスコットキャラクターの魅力について伝え合うために、事実や自分の意見や考えなどを整理し、英語で説明することができる。」という Large Task に向けた単元計画を生徒と共有した上で、生徒が把握した自己課題に基づき自己決定した内容や方法で学習に取り組むことができるよう授業をデザインすることで、Large Task を軸とした自由進度学習の実現を目指したい。

まず、第 1 時においては、単元の見通しをもたせた上で、プレテストに臨ませ、自己課題を把握させる。さらに、単元の学習内容を本校美術科における「魅力たっぷりの玉龍のマスコットキャラクターをつくろう」という単元と横断させる。そうすることで、生徒が教科の枠を超えた学びを取り入れながら主体的に試行錯誤を繰り返すことができるようにさせたい。

第 2 時から第 4 時にかけては、新出表現を中心に扱いながら、small tasks に沿って、言語活動に取り組ませ、他者紹介に必要な言語材料や表現を身に付けさせたい。その際には、リーダーを中心とした班活動において協働的に学習に取り組ませる。また、単元を通して、ICT 等を用いて多様な教材を活用させたり、既習事項を振り返らせたりすることができるようにすることで生徒の自律的な学びを促すよう工夫したい。

第 5 時から第 7 時にかけては、教科書の本文を扱いながら、他者紹介をよりよくする表現や工夫について学ばせたい。その際にも、協働的に学習に取り組ませる。また、各時間の終末には、パフォーマンステストの練習を複数回実施できるように設定する。さらに、第 6 時においては、中間発表を実施し、生徒が進捗状況と自己課題を改めて把握できるようにさせたい。

第 8 時において、班の中でリハーサルを実施し、第 9 時には、パフォーマンステストとして、イザベラ先生へのマスコットキャラクター紹介の動画撮影を行なった後、ワークシートに紹介文を書かせる。そして、そのワークシートをクラス全体で共有する。第 10 時にはイザベラ先生からのフィードバックによって生

徒にユニバーサルな観点を取り入れさせる。そして、そうした観点を生かし、美術の授業においてさらにマスコットキャラクターの改善を図らせたい。

単元を通した、単元におけるゴールやプロセスの見通しのもたせ方の工夫や、自己決定した課題に取り組むための学習環境の整備、Large Taskに向けた進捗状況の把握に関する取組を通して、自律的に資質・能力を身に付けようとする生徒の育成を目指したい。

### 3 単元の目標(話すこと[発表])

ALT に、自分が考案した学校のマスコットキャラクターの魅力について伝え合うために、事実や自分の意見や考えなどを整理し、英語で説明することができる。

### 4 CAN-DOリストとの関連

話すこと[発表]

イ 日常的な話題や鹿児島または身近な地域について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

### 5 単元の評価規準

領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(発表)	<p>[知識] 三単現の場合の肯定文や否定文、疑問文など、学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。</p> <p>[技能] 自分が考案した学校のマスコットキャラクターの魅力について、三単現の場合の肯定文や否定文、疑問文などを用いて、事実や自分の意見や考えなどをまとめている。</p>	<p>ALT に、自分が考案した学校のマスコットキャラクターの魅力について伝え合うために、簡単な語句や文を用いて、事実や自分の意見や考えなどをまとめ、説明している。</p>	<p>ALT に、自分が考案した学校のマスコットキャラクターの魅力について伝え合うために、簡単な語句や文を用いて、事実や自分の意見や考えなどをまとめ、説明しようとしている。</p>



## 7 本時の実際(2/10)

### (1) 本時の目標

自分の友達について、その特徴や魅力などを、三単現の肯定文などを用いて短く話すことができるようにする。

### (2) 授業デザイン上の工夫

#### ① 単元シートの活用と教師等の関わり方の工夫【単元におけるゴールやプロセスの見通しのもたせ方の工夫】

Large Task に向けた単元計画を作成し、それを生徒と共有することで生徒に単元におけるゴールやプロセスの見通しをもたせる。また、授業中においても教師やリーダー役の生徒の関わりによって、本時のタスクや新出表現、既習事項などを常に想起させ、生徒が見通しをもったり、振り返ったりすることができるようにする。

#### ② ICT や生成 AI の活用とリーダーの設定の工夫【自己決定した課題に取り組むための学習環境の整備】

生徒が個々に自己決定した課題に取り組むためには、単一の教材のみではなく、多様な教材が準備されている必要がある。そうすることで、教師の準備にかかる時間が一時的に増えることになる。そこで、ICT や生成 AI を活用して複数の教材を効率よく準備できるようにする。

また、授業導入時には、ICT を用いて、既習事項を繰り返し使用させる帯活動に取り組ませる。そうすることで、生徒は毎時間の学びを既習事項と関連させ、試行錯誤を繰り返しながら、言語活動に取り組むことができると考える。さらに、帯活動で使用する教材をはじめ、様々な教材をロイロノート上で共有することで、生徒は指定された時間だけでなく、自己決定に基づき課題に取り組むことができるようにする。

さらに、授業中の言語活動等にグループで取り組ませる際には、グループ内にリーダーを設定する。リーダーは、グループを管理する役割を担うだけでなく、グループにいる生徒にとって新たな視点を与えたり、必要な助言を与えたりする役割を担うことができるので、生徒同士の課題解決に向けた学び合いを促進することができると思う。

#### ③ 単元計画の工夫【Large Task に向けた進捗状況の把握】

単元の第 1 時や中間点において、パフォーマンステストの試行を行わせ、生徒自身が自己課題に気付くことができるようにする。また、生徒と共有する単元計画には振り返りの欄を設ける。毎時間の終末時に振り返りを行わせることで、Large Task に向けた進捗状況を把握させ、さらに、美術科と教科横断的に単元計画を作成することで、生徒に教科の枠を超えて単元と向き合わせ、学校生活を通して継続的に自身の進捗状況を把握させる。

(3) 展開

	生徒の活動(時間 形態) ※生徒が使用可能な教材	○指導上の留意点 ◆研究との関連 ◎評価
導入	1 スライドの指示に従いやり取りを行う。 (5分 ペア) ※帯活動用スライド, 教科書, 問題集等	◆ 始業と同時に生徒がタブレットを用いて帯活動を進めることができる学習環境をつくる。【7-(2)-②】
	2 教師とあいさつをする。(1分 全体)	○ 生徒の様子を観察する。 ◆ Large Task を想起させる。【7-(2)-①】
展開	3 教師とのやり取りを通して, 新出文型に気付いた後, ゴールを確認する。(4分 全体)	○ 教師がモデルとして示す言語使用場面や新出表現を確認させる。 ○ 友達を紹介する内容については, Unit4 で交換した名刺の内容を想起させる。
	【Today's Goal】 友達の魅力を班のメンバーに紹介できる。	
	4 Today's Goal の達成に向け, 名刺に示された友達の特徴や魅力についてグループ内の生徒に伝える。 ※モデル音声, 既習事項スライド, 教科書, 問題集等	◆ リーダーを中心に, 協働的に活動できるようにする。また, リーダーとは事前打ち合わせを行い, 役割や課題について確認しておく。 【7-(2)-①②】
		リーダーの役割: ゴールの確認, 時間管理, アイズブレイク, 多様な意見の収集, グループ外の人や物からの情報収集や比較, 活動のまとめ
	① これまでの言語活動等を生かし, グループ内で友達の特徴や魅力を伝え合う言語活動を試行する。 (7分 4人グループ)	◆ 言語活動のモデル音声や過去の授業で用いた教材等をロイロノート上で共有し, 生徒が見返すことができるようにする。【7-(2)-②】 ○ 活動を観察し, 魅力を伝えたり, 新出表現の特徴に気付いたりしている生徒の発表を全体で共有し, 活動の参考にさせる。
	② ①の活動で教師が取り上げた生徒の発言で扱われた新出表現や Large Task に関連がある表現等の特徴などについて理解する。(3分 全体)	○ 既習事項と関連付けながら新出表現の意味・形・用法について確認をさせる。
	③ 新出表現や Large Task に関連がある表現等の口頭練習を行う。(4分 全体)	◆ 口頭練習で用いた教材はロイロノートで共有する。【7-(2)-②】
	④ 再度, 友達の特徴や魅力を発表する練習を行う。(3分 4人グループ)	
⑤ グループ内で友達の特徴や魅力を発表する。(5分 4人グループ)	○ 異なるペアで複数回取り組ませる。 ◎ 友達の特徴などについて, 三単現の肯定文を用いて, ペアの生徒に友達の魅力を伝えることができたか。	
5 本日のまとめを行う。(1分 全体)	◆ Today's Goal や CAN-DO リストの振り返りや, Large Task との関連及び見通しの確認をさせる。【7-(2)-③】	
終末	6 振り返りと自己課題解決に向けた学習を行う。(15分 各自) ※美術の教材, モデル音声, 帯活動用スライド, 既習事項スライド, 教科書, 問題集等	◆ 本時の振り返りを踏まえ, 本時で扱った資料や, 問題集, web 教材を生徒の自己決定に基づき活用させる。【7-(2)-②, ③】 ○ 生徒が自己課題やその解決に向けた見通し及び手だてをもっているかを確認し, 必要に応じて助言等する。
	7 次時以降の見通しをもつ。(1分 全体)	◆ 単元計画を確認させる。【7-(2)-③】
	8 教師とあいさつをする(1分 全体)	

